

環境 NEWS (第6回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

持続可能な開発目標(SDGs)についてご説明して参りましたが、「壮大過ぎて理解出来ない」とのご意見を耳にしました。

今回は、具体的に、我われ釣り人が関係する海洋汚染について考えてみましょう。

■釣り人が出す海洋ゴミについて

海のプラスチックごみを少しでも減らすために、我われ全日本サーフは、海岸のクリーンアップ活動を行っております。

あえて、釣り人が誤って海のゴミを排出するケースを考えてみましょう。もちろん、全日本サーフの会員さんは常日頃から気を付けていらっしゃることはと思いますが、確認の意味で述べさせていただきます。

<考えられるもの>

- ・道糸、力糸(PE やナイロン製など)
- ・テンビン、鉛製オモリ

※一部では、「鉛は低環境負荷」とも言われていますが、欧州では鉛に関する規制がかなり厳しいのが実情です。

- ・仕掛け(釣りバリ、ハリス)、サルカン類

※ハリやサルカンなどの鉄類は、一般的には海水で錆びるため環境負荷は低いとされています。

<排出しないためには>

可能な限り、海底に取り残さない工夫が必要です。

- ・木製のエサ箱を使用する(エサは、風で飛ぶおそれのあるプラスチック容器で購入しない)
- ・釣り場の選択(根掛かりを恐れず挑戦することが、本当にベストなことなのか)
- ・高切れの予防(古いラインや傷のあるラインは早目に交換する)
- ・高切れで取り残された仕掛けを回収してみる(砂浜の場合、同じ場所に何度か投入してみると、無くした仕掛けを回収できる場合があります)
- ・環境にやさしい素材のものを使用する(例えば、鉄製やタングステン製のオモリの使用。今後出来るかどうかは分かりませんが、自然石製のオモリや植物由来のハリスなど)

「どうしたら釣れるか」だけでは無く、いろいろなことを考えることが重要です。